

# 2011年度事業計画

(自 2011年4月1日～至 2012年3月31日)

社団法人 日本薬剤学会

## はじめに

日本薬剤学会は、薬剤学の進歩及び普及を図り、科学、技術、文化の発展に寄与することを目的として1985年に設立された学術団体ですが、2006年4月6日には、文部科学大臣より社団法人設立の認可を受けており、これまで一定の成果をあげてきております。今年度は、更に2008年12月から施行された新公益法人制度における公益社団法人に移行すべく申請を行い、一層薬剤学の発展、教育、啓発に関して活発に活動を展開し、社会に貢献して行くことを目指しております。

公益社団法人としての定款(案)は以下のとおりですが、ここに定める目的に沿って7つの事業を推進することが、本学会の役割であり、このことが公益社団法人等の認定に関する法律で規定する公益事業の23種類のうち「1 学術及び科学技術の振興を目的とする事業」に該当し、更にはこの事業の充実を図ることが、医療の向上、国民の健康の維持増進に寄与することに繋がり、「6 公衆衛生の向上を目的とする事業」に該当することになります。

したがって、学会としての健全な財務基盤と内部統治(ガバナンス)の組織体制の下、早急に申請して公益社団法人の認可を得ることは、今年度の大きな事業の一つとなっております。

### 公益社団法人 日本薬剤学会・定款(案)

#### (目的)

第3条 この法人は、薬剤学に関する学理及びその応用の研究調査並びにその成果の利用についての発表、知識意見の交換調整、情報の提供、会員相互及び国内外の関連学協会等との連携協力等を行うことにより、薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図り、もってわが国の科学技術の発展と文化の向上に寄与することを目的とする。

#### (事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学術集会、研修会、講習会等の開催
- (2) 機関誌、学術雑誌、その他出版物の刊行
- (3) 研究の奨励及び研究業績の表彰
- (4) 国内外の関連学協会等との連絡及び協力
- (5) 研究及び調査
- (6) 薬剤学に関する学識及び技術等の認定
- (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

製薬企業各社においては、薬業界の高度成長期を支えてきた団塊の世代の定年退職、また、コスト低減のための委託製造の推進などに伴い、各社とも技術力の空洞化が懸念されております。このため、本学会としては、製剤技術の伝承を企図した講習会、実習などを引き続き実施するとともに、昨年度に立ち上げた「製剤技師の認定制度」を定着普及させ、若手技術者、研究者の技術力、知識力の向上に寄与できるように事業の一つとして育成させていきます。

また、共通の研究目的等による分野横断的なユニットとしてのフォーカスグループ(FG)の活動は、研究のシーズを醸成していくための新たなツールとして期待され、これも薬剤学会ならではの事業の一つとして発展させていきます。

薬剤学を取巻く環境の変化としては、6年制薬学教育の問題があり、2012年度から薬学部卒第一期生が世の中に出てきて、旧4年制課程卒業薬剤師との共生が始まることとなります。教育現場の立場から、また、薬剤師業務の立場から、検証すべきことがあり、本学会として何をやらなければならないのか、整理をしていく必要があります。

世界に目を向けますと、世界薬学連合 FIP において昨年「World Pharmacists' Day」を9月25日に設定することが採択されております。これを受けて国内でも「薬剤師の日」設定を本学会として推進していくことが確認されております。「薬剤師」でなく「薬師」とするのが適切ではないかとの議論もあり、今年度はこの具体化が求められます。

更に、本学会の公開市民講演でも講演を予定しておりますが、永井恒司名誉会長がここ何年か主張しておられることに、「医薬分業の国際標準化」の問題があります。

以上、今年度の薬剤学会としましては、最重要事項として公益社団法人への移行を達成すること、事業として製剤技術伝承事業を育成し、フォーカスグループ活動を発展させること、また、国際的な整合性の観点から「薬剤師の日」の設定、「医薬分業の国際化」などに取り組みますが、公益社団法人に移行する際に、これまでの慣行、慣習をもう一度精査しまして、より合理的なものとなりますよう会員、関係者の協力と理解を得ながら改革を進めていくことも重要な課題と捉えております。

## 事業計画の概要

公益社団法人を目指す本学会の2011年度の事業計画は、一層「公益性」を重視したものとなりますが、定款（案）に基づき2011年度において実施する事業計画の概要は以下のとおりです。

### 1 学術集会、研修会、講習会等の開催（定款第5条1号、同案第4条1号）

#### 1.1 公開市民講演会

一般市民を対象にした公開市民講演は、毎年年会の開催に併せて実施していますが、今年度は「輝く未来のために」というテーマで、二人の先生方に講演していただきます。

- テーマ：「輝く未来のために」
- 開催日：2011年5月28日
- 会場：タワーホール船堀（東京）
- 演題
  - ・ 心の健康を考える：西川 徹（東京医科歯科大学医学部）
  - ・ 市民の生命と健康を守る薬剤師－欧米先進国型の医薬分業とは－：永井恒司（財団法人永井記念薬学国際交流財団）

#### 1.2 第26年会

年会は薬剤学を取巻く最近の話題、動向について講師を招聘して講演会、シンポジウム形式の企画が設けられるとともに、薬剤学、製剤学などの研究成果を発表する場としての学術集会として位置付けが大きく、また、日本薬剤学会賞などの授賞式及び受賞講演、英語セミナー、医薬品包装シンポジウム、大学院生シンポジウムなどのほか企業展示会も併せて開催されるなど、会員のみならず非会員も参加できる本学会最大の行事となっています。

今回の年会の概要は以下のとおりですが、東日本大震災でのダメージに屈することなく、復興の未来予想を見据えた活発な年会を目指します。

- 開催日：2010年5月29日～31日

- 会場：タワーホール船堀（東京）
- メインテーマ：「薬剤学の未来予想図」
- 年会長：安原真人（東京医科歯科大学医学部附属病院）
- 特別講演
  - ・ Mechanism-based Pharmacokinetics and Pharmacodynamics in Translational Drug Research：Meindert Danhof（Leiden-Amsterdam Center for Drug Research）
  - ・ 医療に求められるコンプライアンス：郷原信郎（郷原総合法律事務所，名城大学）

### 1.3 第36回製剤セミナー

「製剤セミナー」は、発足以来、わが国の製剤研究、技術開発の進展に多大な貢献を果たすとともに、特に若手製剤研究者の育成・啓発に注力して参りました。本セミナーの特徴は大学・製薬企業・医療機関の各分野において製剤技術に関わる研究者が一堂に集い、サイエンスとテクノロジーの観点のみならず、刻々と変化する時代のニーズに合わせてテーマを選定し、また2泊3日の合宿形式で濃厚な議論をすることにあります。

今回から会場を掛川のつま恋に移しますが、主な内容は以下のとおりです。

- 開催日：2011年7月20日～22日
- 会場：ヤマハリゾートつま恋（静岡）
- メインテーマ：「ユーザビリティと創剤」
- 実行委員長：板井 茂（静岡県立大学薬学部）
- 特別講演
  - ・ 顧客志向型新製剤開発戦略：迫 和博（アステラス製薬）
  - ・ 第16改正日本薬局方における製剤総則改正について：川西 徹（国立医薬品食品衛生研究所）
  - ・ 国内外における小児医薬品開発の最新動向と小児用製剤：中村秀文（国立成育医療研究センター）

### 1.4 製剤技術伝承講習会

#### 1.4.1 第9回シミック製剤技術アカデミー/APSTJ製剤技術伝承講習会（固形製剤）

製造の委託推進や世代交代に伴い、製剤・製造の技術力の低下が課題となりつつありますが、2006年に「製剤技術伝承委員会」を立上げ、製剤の達人、匠が持っている奥深い技術と設計思想を学び、若手から中堅の技術者・研究者の技術力を更なる高みへ導くために、製剤技術の伝承を図る講習会の開催を行ってきました。今回は「固形製剤の製剤設計と製造法」をテーマに、以下のとおり延べ4日間、12講師による様々な分野のエキスパートによる講演を行います。

なお、本講習会はシミック（株）のサポートを得た事業となっています。

- 開催日：2011年6月23～24日，7月28～29日
- 会場：毎日インテシオ（大阪）
- 演 題
  - ①製剤設計総論，②製造現場の打錠障害，③速崩壊錠の設計と外部滑沢打錠法の活用，④クスリが変わる（口腔内崩壊錠の大潮流・技術・展望），⑤造粒・コーティングと製剤機器，⑥医薬品製造における混合操作—混合はモノ作りの出発点—，⑦製剤からの薬物の吸収性評価，⑧製剤の苦味マスキングと徐放化技術，⑨原薬の物性及び製剤の製造における新しい評価法，⑩固形製剤の製造プロセスにおける経験値—粉体物性とその挙動が製品品質に及ぼす影響—，⑪造粒・混合・打錠工程のスケールアップとトラブル防止，⑫顧客志向における製剤・包装の利便性，識別性について

#### 1.4.2 第10回シミック製剤技術アカデミー/APSTJ製剤技術伝承講習会（非経口製剤）

夏季に開催される固形製剤に対して非経口製剤を取り巻く各種技術、ノウハウについての技術伝承の講習会ですが、今年度は以下の内容で実施します。

なお、本講習会はシミック（株）のサポートを得た事業となっています。

- 開催日：2012年1月，2月頃の前後期各2日間
- 会場：未定（大阪）
- 演題  
注射剤，凍結乾燥注射剤，プレフィルドシリンジ製剤，経肺投与製剤，経皮投与製剤，並びに無菌管理など（未定）

#### 1.4.3 第2回製剤技術伝承実習講習会

前述の製剤技術伝承講習会（固形製剤，非経口製剤）は座学ですが，本実習講習会では実際に製剤を製造したり，評価分析を実施したり，受講者が実習形式で製剤の達人，専門家から直接ノウハウの伝授が行われるものです。昨年は神戸学院大学薬学部での粉体造粒に関する課題解決型の実習でしたが，本年は最適な結晶形態の選択のノウハウ，原薬の物性評価の基本から応用まで知識と技能習得を目指し，同様に「問題解決型」のカリキュラムとなっており，結晶スクリーニング装置の操作，粉末 X 線回折，熱分析，ラマン・テラヘルツスペクトルなどの測定を計画しております。

- 開催日：2011年9月8日～9日
- 会場：東邦大学薬学部（千葉）
- メインテーマ：「塩・Cocrystalのスクリーニング及び結晶多形，水和物のキャラクタリゼーション」
- 実習内容
  - ・ 講義：医薬品開発における物性研究の位置付け
  - ・ 実習課題 A, B：塩・Cocrystalのスクリーニング
  - ・ 実習課題 C, D：多形・水和物のキャラクタリゼーション

#### 1.5 英語セミナー

Global Education Seminarの英名のとおり，国際共通語である英語力を養うために，訪日した外国からの研究者などを講師として招聘し，講義，ディスカッションをすべて英語で実施するものです。今年度も以下のとおり東西での開催を予定しております。

- 東西合同ワークショップ：第26年会開催期間中
- 東日本地区での開催
- 西日本地区での開催

#### 1.6 学生主催シンポジウム（SNPEE）

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と，学術セッションでの口演能力や講演会運営に求められる知識や経験を涵養することを趣旨として，各年会の会期中に年会長より提供される会場において学生自身で企画運営を行うシンポジウムを開催しています。

なお，本シンポジウムは創剤フォーラムのサポートを得た事業となっています。

## 2 2011年度通常総会（定款第23条，同案第12条）及び評議員会の開催

通常総会（定款第23条）は5月30日（月）に開催し，2010年度の事業報告，収支決算報告，

2011年度の事業計画、収支予算などが報告審議されますが、特別決議事項として公益社団法人への移行申請に伴う定款案の審議を予定しており、正会員現在数の4分の3以上の議決権数が必要となりますので、総会に出席できない場合の「他の正会員を代理人とした表決の委任」を確実にしておく必要があります。

また、通常総会開催当日、総会に先立って評議員会（細則第25条）を開催し、通常総会に付議する事項について審議を行います。

- 2011年度通常総会
  - ・ 開催日：2011年5月30日
  - ・ 会場：タワーホール船堀（東京）
- 2011年度評議員会
  - ・ 開催日：2011年5月30日
  - ・ 会場：タワーホール船堀（東京）

### 3 理事会の開催（定款第20条、同案第29条）

理事会は、理事11名のほか、監事、顧問などのオブザーバー参加の下開催されますが、本学会の各種事業が適正、かつ円滑に遂行されるように、幅広い観点から様々な提案・審議が行われ、決定事項は必要に応じて評議員会、総会に報告、承認を得て進めて参ります。公益社団法人への移行、その他関連団体との連携などから発生する新たな課題への取り組みについて方向性の検討を行いますが、今年度は以下4回開催します。

特に従前に増して公益社団法人を意識した学会運営が求められ、健全な財政基盤と適正な内部統治（ガバナンス）の組織体制を構築することに傾注するとともに、理事会が一丸となってこれらが順調に定着・機能するように検証していく必要があります。

- 第1回：2011年4月15日
- 第2回：2011年5月28日
- 第3回：2011年9月頃
- 第4回：2012年1月頃

### 4 会報、学会誌その他の刊行物の発行（定款第5条2号、同案第4条2号）

#### 4.1 会誌「薬剤学」の発行

主として会員向けに最新の薬剤学、製剤学などにまつわる情報を、トピック形式、総説形式で紹介するほか、若手研究者紹介、研究室紹介など会員相互の情報交換誌的な位置付けと、投稿論文の掲載を行うなど学術雑誌としての機能も持った会誌として長い歴史を持っております。

第71巻1号において「医薬 LCM」特集を組んだように、毎巻第1号は特定のテーマについての特集号とするほか、6年制薬学教育の課題について薬局実習を取り上げるなど、その時々を話題を掘り下げる企画も行います。

会誌は従前どおり以下6回を隔月に発行しますが、従来 Supplement として発行してきました年会の講演要旨集につきましては、会誌とは切り離し、今年度から年会固有の要旨集との位置付けとしました。

- Vol. 71 No. 3（2011年5月）
- Vol. 71 No. 4（2011年7月）
- Vol. 71 No. 5（2011年9月）

- Vol. 71 No. 6 (2011 年 11 月)
- Vol. 72 No. 1 (2012 年 1 月)
- Vol. 72 No. 2 (2012 年 3 月)

#### 4.2 欧文誌 "Journal of Drug Delivery Science and Technology"

本学会の公式英文誌として APGI (フランス薬剤学会), ADRITELF (イタリア薬剤学会) とともに, Editorial Board としての編集を行います。

#### 4.3 その他の刊行物

出版委員会が立ち上がり, 今年度より活動を展開していきます。当面の刊行物の候補としましては, 以下 3 種が検討にあがっており, 優先順位を決めて順次出版化を進めて参ります。

- 薬剤学実験書: 物理薬剤学, 生物薬剤学分野の研究にあたり実験手技を網羅した実験マニュアルの作成。
- 製剤技術伝承講習会テキスト: これまで 8 回分のテキストに解説文を起こしての冊子化。
- 製剤技師認定試験受験用テキスト: 受験の目安となるテキストの作成。

### 5 薬剤学及び関連科学並びに産業に関する研究業績の表彰 (定款第 5 条 3 号, 案 4 条 3 号)

本学会では研究者などの功績・業績を顕揚するため, 分野ごとに 13 の賞を設置しており, それぞれの選考委員会において一般公募のあった候補者については, 年 1 回, 各選考規程に基づき受賞者を決定し, 年会の場で授賞式を実施しております。

それぞれの賞の顕彰の目的は以下のとおりです。

#### 5.1 学会賞

日本薬剤学会賞は, わが国における製剤学, 薬剤学, 製剤技術, 医療薬剤学の進歩発展に著しく貢献した研究者の功績を顕揚することを目的としております。

#### 5.2 功績賞

日本薬剤学会功績賞は, 本学会の運営・発展への貢献, 薬剤学教育への貢献, 薬剤学・製剤学の進歩・発展・振興への貢献, 及び医療薬剤学の進歩・発展・振興への貢献に関する功績を顕揚するため, 日本薬剤学会功績賞を設定しております。

#### 5.3 奨励賞

日本薬剤学会奨励賞は, わが国における薬剤学, 製剤学, 製剤技術, 医療薬剤学の基礎及び応用に関し, 独創的な研究業績をあげつつあり, これら分野の将来を担うことが期待される研究者を奨励することを目的としております。

#### 5.4 タケル・アヤ・ヒグチ記念栄誉講演賞 (当期設定なし)

#### 5.5 タケル・アヤ・ヒグチ記念賞

本賞は, 薬剤学・製剤学分野における学問上, 教育上, 医療上, 医薬品工業上の発展に顕著な功績を挙げた会員で, 受賞を励みにして更なる活躍を期待して授与することとしております。

本賞の主旨は, 故タケル・ヒグチ教授の偉大な功績並びに故アヤ夫人の功を記念して設けられたタケル・アヤ・ヒグチ記念基金の目的に沿ったものですが, 隔年実施で今年度は公募を実

施します。

#### 5.6 旭化成創剤開発技術賞

旭化成創剤開発技術賞は、国際的な製剤の品質に関する考え方の変貌に応える製剤・創剤開発の基礎及び応用に関するハード及びソフトの優れた研究を対象として表彰致します。

なお、本賞は旭化成ケミカルズ（株）のサポートを得た事業となっています。

#### 5.7 旭化成創剤研究奨励賞

旭化成創剤研究奨励賞は、製剤の機能化、最適な投与方法とそれに合った剤形開発、製剤の処方研究によって目標とする新規製剤の開発に顕著に貢献したものを対象として表彰致します。

なお、本賞は旭化成ケミカルズ（株）のサポートを得た事業となっています。

#### 5.8 永井記念国際女性科学者賞

本学会は、薬剤学領域において顕著な業績を挙げ将来も顕著な業績を挙げることが期待される、現職の国内・国外の女性科学者を顕彰することを目的に、The APSTJ Nagai International Woman Scientist Award（日本薬剤学会永井記念国際女性科学者賞）を設定しております。なお、本賞は毎年国内・国外の科学者に対し交互に1件授与することとしており、今回は国外の研究者の応募・推薦を対象と致します。

なお、本賞は財団法人永井記念薬学国際交流財団のサポートを得た事業となっています。

#### 5.9 創剤特別賞

日本薬剤学会創剤特別賞は、国際的に特に顕著な評価を受けた有形・無形の創剤（科学、技術並びに製品）を創成した会員を顕彰するため、臨時に授賞するものです。

#### 5.10 優秀論文賞

日本薬剤学会優秀論文賞は、会誌「薬剤学」及び公式英文誌"Journal of Drug Delivery Science & Technology"の学術雑誌としての質の向上を目的として、会員の著者を対象に、隔年で最大2報の優れた原著論文に対して授与しています。

#### 5.11 「製剤の達人」称号

医薬品製剤技術の研究開発に長年にわたり従事し、研鑽につとめて衆目の一致する高い技術を確立した者の業績を称えるものです。認定者にはその技術、研究成果などを技術伝承講習会において講師としてノウハウの伝授など、後進への教育、技術の伝承に当たっていただきます。

#### 5.12 「国際フェロー」称号

日本薬剤学会国際フェローの称号は、薬剤学関連領域で国際的に特に顕著な業績を上げた会員（国際学術団体の著名な賞の受賞者並びに会長・副会長等の代表役員経験者）、本学会の国際賞（タケル・アヤ・ヒグチ記念荣誉講演賞並びに永井記念国際女性科学者賞）を受賞した外国人、並びに多くの会員を留学生として受け入れた外国人を顕彰するため、臨時に授賞するものです。

#### 5.13 「薬と健康の週間」懸賞論文表彰

「薬と健康の週間」への協賛として、薬学を学んでいる若い学生を対象に与えられたテーマ

についての論文を広く募集致します。

## 6 関連学術団体との連絡及び協力（定款第5条4号，同案第4条4号）

### 6.1 関連学術団体主催の集会への協賛，共催，後援

日本薬物動態学会，日本 DDS 学会，創剤フォーラムなどを始めとする国内の関連学会とは，オーバーラップする部分があり，行事開催に当たっては適宜，協賛，後援，共催などを実施し，相互協調体制を図ります。

### 6.2 国際的な研究協力の推進（定款第5条5号）

国際薬学連合 FIP には 1988 年より Member Organization として，運営面で種々国際貢献を果たすなどの役割を担うなどの連携・協力を行ってきております。また，従来国際委員会のミッションであった以下 4 つの機能を包括するとともに，FIP 及び AFPS との連携を図ります。

- ① 日本の薬科学の動向を世界に向け発信する  
(FIP, AAPS, EUFEPS, CRS, ISSX 等との協力)
- ② 国際的シンポジウムを開催する
- ③ 国際的な視野に立てる若い人材を多く育成する
- ④ 英語セミナーをさらに推進する

#### 6.2.1 FIP（国際薬学連合）との連携

##### 6.2.1.1 Council Meeting への代表委員派遣

本学会は FIP の Member Organization として，Council Meeting へ代表委員を派遣し，FIP の国際的な保健活動や学会活動を推進し，活動協力を行います。また，FIP と連携した活動を通じ，世界の薬学関連情報を収集するとともに，日本及び本学会の情報を発信します。

##### 6.2.1.2 Board of Pharmaceutical Sciences (BPS) への参画

本学会は BPS に参画し，Congress, PSWC のプログラム編成や FIP のオフィシャルジャーナルである Journal of Pharmaceutical Sciences の編集の支援のほか，薬科学に関する FIP の諸事業に参画します。

##### 6.2.1.3 71th Congress の共催

本学会は FIP の Member Organization として，71th Congress を共催し，プログラム作成や運営に貢献します。

#### 6.2.2 AFPS（アジア薬科学連合）との連携

本学会は AFPS の Member Organization として，アジア地域における薬科学研究の発展に寄与します。

## 7 各種委員会活動（法人の目的達成のために必要なその他の事業）（定款第5条6号，同案第4条7号）

本学会が行う各種の事業を適正かつ円滑に遂行するために，常置委員会及び特別委員会を設置します。

### 7.1 常置委員会

常置委員会として以下の委員会を置きます。

#### 7.1.1 役員評議員候補者選考委員会

会長の委嘱を受けて役員評議員選考規程に従い、役員並びに評議員の候補者の選考を行います。

#### 7.1.2 会誌「薬剤学」編集委員会

会誌「薬剤学」の編集を行います。今年度の予定としては Vol. 71 No. 3～Vol. 72 No. 2 の発刊に合わせて隔月に 6 回の編集委員会を開催します。

#### 7.1.3 会誌「薬剤学」投稿論文審査委員会

論文投稿規程に従い、会員から投稿された論文の審査を、審査規程に基づいて行います。審査はメールベースで逐次行われます。

#### 7.1.4 広報委員会

ホームページ作成等により、学会の広報を行います。本学会の年間イベントの最新情報への更新（イベント情報）を行うほか、共催、協賛事業のリンク案内（関連学会情報）、トピックスの紹介（最新情報）への情報の追加などを検討しております。

「おくすり Q&A」のコーナーでは、一般の方を対象に薬の適正使用推進を啓発するような形で、Q&A 形式での掲載を行っておりますが、個別の事例については対応せず、一般的な事例に限定しております。

今年度は更に、会員拡大委員会の以下 3 つのミッションを、広報の一環と捉えて活動を行って参ります。

- ① 新規会員を発掘し、勧誘を行い、会員数を増加させる
- ② 既存会員の定着と、学会の活性化を行う
- ③ 他学会との連携をはかり、会員勧誘を行う

今年度の委員会開催予定は以下のとおりですが、広報拡大委員会ミッションの具体化のため、必要に応じ別途開催します。

- ・ 開催日：2011 年 5 月 29 日
- ・ 会 場：タワーホール船堀（東京）

#### 7.1.5 製剤技師認定委員会

2009 年度から準備を進めてきました「製剤技師」の認定制度としての試験の実施ですが、昨年度第 1 回を実施して 30 名の「製剤技師」を認定しております。今年度の課題の一つには、本認定試験の社会的な認知度とステータスの向上を図ることがあり、様々な活動を展開していきます。また、合目的的で適正な試験問題を継続的に供給することも重要な責務と捉えていますので、システムの整備を検討課題にして参ります。これらを検討しつつ、引き続き、第 2 回の認定試験の実施のため、3 回の委員会開催を予定しております。

- 2011 年 5 月 14 日：第 2 回認定試験実施スケジュールの確認
- 2011 年 8 月：レビューアーによる試験問題精査のための査読会
- 2011 年 11 月：合格者決定のための審議

### 7.1.6 フォーカスグループ統括委員会

将来ビジョン委員会の検討成果として、共通の研究目的等による分野横断的なユニットとしてのフォーカスグループ（FG）が次々と生まれ、現在以下 9 つになっております。本委員会はこれらを統括する位置付けで、将来ビジョン委員会のミッションである薬剤学会会員の将来の研究ビジョンの構築、新たな研究戦略の構築、他研究領域との積極的協力体制の確立、新しい研究コンセプトの発信などを推進していきます。

- ① 経口吸収 FG
- ② がん治療 FG
- ③ 経皮投与製剤 FG
- ④ 経肺投与製剤 FG
- ⑤ 院内製剤・調剤 FG
- ⑥ 遺伝子・細胞製剤 FG
- ⑦ 薬物相互作用 FG
- ⑧ 医療 ZD と調剤 FG
- ⑨ DDS 製剤臨床応用 FG

### 7.1.7 将来ビジョン委員会

以下 4 項目を具現化するため、2007 年から活動を開始しましたが、共通の研究目的等による分野横断的なユニットとして、各種フォーカスグループへと発展しており、一応の成果をあげており、当面検討すべき事項はないので、必要に応じ開催することとします。

- ① 薬剤学会会員の将来の研究ビジョンを構築する。
- ② 新たな研究戦略を構築する。
- ③ 他研究領域との積極的協力体制を確立する。
- ④ 新しい研究コンセプトを対外的に発信する。

## 7.2 特別委員会

特別委員会として以下の委員会を置きます（3 委員会は廃止）。

### 7.2.1 年会組織委員会

年会事業は、医薬品の開発から臨床使用まで多様な研究領域を反映して、企業・大学・病院・行政と異なるバックグラウンドの研究者が一堂に会して情報交換できる重要な機会であり、本学会最大の行事です。参加者も多く、一般発表、特別講演、シンポジウムなど多くのセッションが開催されるため、その運営には膨大な準備と労力を必要とするため、負担も大きく、年会組織委員会は毎年交替で、持ち回りで行っています。

今年度は安原真人年会長（東京医科歯科大学医学部附属病院）が担当です。

### 7.2.2 製剤セミナー実行委員会

製剤セミナー事業は、本学会としても最も歴史のある事業ですが、毎年 1 回の開催のため、メインテーマの決定、プログラムの検討などを行います。

### 7.2.3 製剤技術伝承委員会

年 2 回開催予定のシミック製剤技術アカデミー/APSTJ 製剤技術伝承講習会（座学）、並びに昨年からは開始された製剤技術伝承実習講習会の企画、実施を行います。5 月及び 1 月の 2 回開催予定です。

#### 7.2.4 公益認定申請ワーキンググループ

特例民法法人（旧社団法人）から公益社団法人への移行申請の準備のため、本学会の事業編成や財務状況、定款、細則などの規定類について整備検討を行います。

#### 7.2.5 出版委員会

本学会の専門領域に関する書籍等の企画・出版を行います。

#### 7.2.6 国際標準医薬分業推進事業に関する委員会

国際標準的な医薬分業（完全分業あるいは強制分業）へ改正する必要性について検討します。

#### 7.2.7 学会賞選考委員会

学会賞，功績賞，奨励賞の3賞の授賞者の選考を行います。

#### 7.2.8 旭化成創剤賞選考委員会

旭化成創剤開発技術賞及び同創剤研究奨励賞の授賞者の選考を行います。

#### 7.2.9 タケル・アヤ・ヒグチ記念賞選考委員会

タケル・アヤ・ヒグチ記念賞の授賞者の選考を行います。

#### 7.2.10 永井記念国際女性科学者賞選考委員会

永井記念国際女性科学者賞の授賞者の選考を行います。

#### 7.2.11 その他

- **国際委員会**

今年度から、英語セミナーや、国際学会協力事業の中に本委員会の業務を取り込むこととし、国際委員会は廃止します。

- **会員拡大委員会**

今年度よりその機能の全てを広報委員会へ移行し、会員拡大委員会は廃止とします。

- **リーダーシップ委員会**

今年度よりその機能の全てを国際標準医薬分業推進事業へ移行し、リーダーシップ委員会は廃止とします。

## 8 各種分科会活動

### 8.1 医薬品の包装と情報分科会

本学会の主体となる「薬剤学」を支える包装・情報に関して、それを専門とする研究・技術者が協議し本学会に対して情報発信を行うことを任務としています。これまでの活動は、年会において「医薬品包装シンポジウム」を開催し参加者に最新情報を提示し、討論の機会を提供してきました。今年度もすでに年会におけるシンポジウムテーマ、講演者の提案を終えています。

- シンポジウムテーマ：製剤開発の未来を支える包装テクノロジー
- 講演者：定本清美（東邦大学薬学部） 他3名

本年会終了後直ちに次年度年会でのシンポジウムの準備にかかります。そのための委員会

はこれまでどおり年3回程度開催し、製剤開発を主眼に置いた情報集約、討論を行い薬剤学の発展に寄与することを目指します。

## 8.2 教育分科会

「薬剤学」に関わる教員や学生の教育問題について、専門委員が協議して本学会に提言を行います。教育に関する資料の企画を行うとともに、年会において「薬学教育シンポジウム」を開催し討論の機会を提供します。

## 9 各種 FG（フォーカスグループ）活動

薬剤学に関わる諸問題のそれぞれに関し、分野横断的に会員相互で情報交換したり、機動力高く研究活動を行うユニットとして各種フォーカスグループ（FG）が設立されました。現在以下9つのFGが独自の活動を展開し、フォーカスグループ統括委員会が全体を俯瞰する形で運営しています。今年度は、各FGの具体的な活動については以下のとおりです。

### 9.1 経口吸収 FG

経口吸収に関わる生体膜機能、吸収機構、体内動態、製剤化や臨床開発に至るまでの幅広い問題を統合的に俯瞰し、新しい「経口吸収」研究の開拓を目指しています。今年度は第26年会におけるシンポジウム「界面化学で理解する経口吸収」の企画運営のほか、2010年度に開催、好評を得た経口吸収FG合宿討論会を継続して実施します。

### 9.2 がん治療 FG

がん治療の実現には、新規製剤開発、製剤技術のみならず臨床現場での抗がん剤の適正使用までを包括した新しい治療戦略の構築が不可欠であり、大学、企業、病院という立場を異にする研究者が協力し合う場を構築しています。今年度は日本薬剤学会第26年会でのシンポジウム「抗がん剤の最新羅針盤（コンパス）～基礎から臨床、その使い方まで～」の企画運営のほか、日本医療薬学会とのジョイントシンポジウムの企画をしています。

### 9.3 経皮投与製剤 FG

経皮投与製剤FGでは大学（薬学・薬学以外）研究者、製薬企業研究者、病院薬剤部研究者、化粧品企業研究者など、様々な分野で活躍している研究者を集め、現在と今後の経皮投与製剤の理論的かつ実際の側面を検討し、日本薬剤学会員にフィードバックして、経皮投与製剤研究のさらなる活性化を図っています。今年度も昨年同様の規模で経皮投与製剤FGシンポジウム（日時・場所未定）を開催します。

### 9.4 経肺投与製剤 FG

患者及び医療従事者にとって、使いやすい経肺投与製剤及び吸入療法の開発を第一の目標に掲げ、本FGを核として大学・企業の製剤研究者、投与デバイス開発者、医療従事者の連携を図ろうとしています。今年度は、第26年会におけるシンポジウム「経肺投与製剤の現状と展望」を企画運営し、会員相互の討論を通じて更なる研究の方向性を探ります。

### 9.5 院内製剤・調剤 FG

「快適な医療を提供するための創剤」を目指して、医療と大学や製薬会社の研究・技術者とのコラボレーションを目的としています。医療サイドから創剤に求められる臨床情報を発信するとともに、大学・製薬企業から院内製剤などへの技術指導を行い、市販化製剤へ向け

た共同研究への展開を視野に討論を重ねていきます。

## 9.6 遺伝子・細胞製剤 FG

遺伝子治療，細胞治療の成功の鍵を握る遺伝子製剤，細胞製剤の最適化を目指す研究は非常に学際的なものであるため，薬剤学領域以外の研究者との交流や情報収集が必要不可欠と考えられます。こうした交流や情報交換のためのプラットフォームとして本 FG は設立されました。これまで，薬剤学会年会や他学会において核酸医薬や遺伝子・細胞製剤に関するシンポジウムを企画してきました。今年度も，第 26 年会においてシンポジウム「核酸医薬研究開発の最前線」を企画し，6 人の演者から本領域に関する最新の知見を提供していただくとともに，活発な討論を行う予定です。

## 9.7 薬物相互作用 FG

薬物相互作用 FG は，各臓器における薬物相互作用を定量的な視点で捉え，*in vitro* 実験の結果に基づく正確な予測，回避するためのスクリーニング系・評価法を研究し，正確な臨床で意味のある薬物相互作用の予測を推進するための基盤を作ろうと活動しています。今年度は，日本薬剤学会第 26 年会において，「薬物相互作用の予測を支える基盤技術と新展開」と題したシンポジウムを開催し，University of Washington の Dr. Kenneth Thummel 教授も交えながら活発な討論を繰り広げていきます。

## 9.8 医療 ZD と調剤 FG

本 FG は，“医薬分立”を基盤に薬剤師が医師処方箋のレビューを含めた真の調剤を実践し，そのリスク管理により医療における ZD (ゼロディフェクト) の達成を目指す社会体制の確立，教育システムの構築を目指しています。これに向けた取り組みとして，市民講演会や論文等を通じて情報を発信していきます。

## 9.9 DDS 製剤臨床応用 FG

DDS 製剤の基礎研究成果をもとに人への臨床応用を実現するための橋渡し研究を推進することを第一の目標に，DDS 製剤の品質，有効性，安全性の評価，あるいは評価手法に関する調査研究，情報交換など，DDS 製剤の開発環境の向上につながる活動を実施するために，今年度発足しました。第 26 年会では，本 FG のキックオフシンポジウムに位置付けた「DDS 製剤の臨床応用への課題」と題したシンポジウムを企画運営し，臨床応用実現に向けた課題，最新の研究成果について討論を行います。

## 10 第 2 回製剤技師認定試験（定款案第 4 条 6 号）

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究・開発・製造担当で，日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規・制度の学識を修得している人々を対象として「製剤技師」として認定する制度を昨年立ち上げ，昨年第 1 回では 30 名の「認定製剤技師」が誕生しています。特に理工学系の製剤技術者・研究者には，薬剤師認定制度以外の医薬品に関する認定制度としての期待が高く，今年度も以下のとおり第 2 回の試験を実施します。

- 開催日：2011 年 10 月又は 11 月
- 会 場：東京及び大阪
- 合格者発表：2011 年 12 月末

以 上

# 収支予算書(損益計算ベース)

2011年4月1日から2012年3月31日まで

社団法人日本薬剤学会

科目	學術集會等	學術集會等	學術集會等	學術集會等	學術集會等	委員會等	委員會等
	年會事業	製劑セミナー事業	製劑技術伝承講習會事業	英語セミナー事業	學生主催シンポジウム事業	會誌「製劑學」編集委員會事業	會誌「製劑學」投稿論文審査委員會
	安原	竹内	菊池	佐々木	高倉	菊池	菊池
一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	0	0	0
正会員	0	0	0	0	0	0	0
学生会員	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員	0	0	0	0	0	0	0
事業収益	30,747,500	11,039,000	13,340,000	240,000	100,000	0	0
學術集會・委員會等事業収益	30,747,500	11,039,000	13,340,000	240,000	100,000	0	0
参加費	11,140,000	8,899,000	12,340,000	240,000	0	0	0
助成金・補助金	0	0	0	0	0	0	0
寄付金・協賛金	5,000,000	0	1,000,000	0	0	0	0
セミナー共催金	3,150,000	0	0	0	0	0	0
講演要旨集等販売料	65,000	0	0	0	0	0	0
広告料	1,732,500	0	0	0	0	0	0
出展料	9,660,000	2,140,000	0	0	0	0	0
学会誌等出版事業収益	0	0	0	0	0	0	0
購読料	0	0	0	0	0	0	0
投稿料・別刷料	0	0	0	0	0	0	0
許諾料・使用料	0	0	0	0	0	0	0
広告料	0	0	0	0	0	0	0
学会賞等表彰事業収益	0	0	0	0	100,000	0	0
助成金・補助金	0	0	0	0	0	0	0
寄付金・協賛金	0	0	0	0	100,000	0	0
製劑技師認定事業収益	0	0	0	0	0	0	0
受験料	0	0	0	0	0	0	0
認定料	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	2,500	0	0	0	0	0	0
雑収益	2,500	0	0	0	0	0	0
受取利息	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	30,750,000	11,039,000	13,340,000	240,000	100,000	0	0
(2) 経常費用							
事業費	30,750,000	11,014,078	8,520,000	588,000	148,000	390,000	25,000
給料手当	0	0	0	0	0	0	0
臨時雇入金	3,700,000	320,250	0	0	0	0	0
会場費	3,000,000	5,610,500	1,350,000	80,000	0	0	0
旅費交通費	1,119,455	300,000	900,000	125,000	0	0	0
会議費	1,200,000	400,000	600,000	0	0	390,000	0
関連行事費	2,400,000	600,000	620,000	200,000	70,000	0	0
賞状・賞牌・副賞費	300,000	0	0	0	43,000	0	0
通信運搬費	900,000	150,000	200,000	0	2,500	0	20,000
ウェブサイト管理費	1,800,000	0	0	0	0	0	0
消耗品費	700,000	50,000	210,000	17,000	2,500	0	5,000
印刷製本費	3,500,000	700,000	1,240,000	0	0	0	0
貸借料	8,500,000	1,100,000	0	0	0	0	0
保管料	0	0	0	0	0	0	0
諸謝金	1,280,545	383,328	2,100,000	166,000	30,000	0	0
租税公課	0	0	0	0	0	0	0
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0
業務委託費	2,200,000	1,400,000	1,300,000	0	0	0	0
公認会計士報酬	0	0	0	0	0	0	0
雑費	150,000	0	0	0	0	0	0
管理費							
経常費用計	30,750,000	11,014,078	8,520,000	588,000	148,000	390,000	25,000
当期一般正味財産増減額	0	24,922	4,820,000	-348,000	-48,000	-390,000	-25,000
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	24,922	4,820,000	-348,000	-48,000	-390,000	-25,000
指定正味財産増減の部							
受取寄付金・助成金							
一般正味財産への振替額							
当期指定正味財産増減額							
指定正味財産期首残高							
指定正味財産期末残高							
正味財産期末残高	0	24,922	4,820,000	-348,000	-48,000	-390,000	-25,000

(注) 会計及び事業区分は、移行認定前又は移行認可前の区分である。

# 収支予算書(損益計算ベース)

2011年4月1日から2012年3月31日まで

社団法人日本薬剤学会

科目	公益目的事業会計						
	委員会等 広報委員会 事業	委員会等 将来ビジョン 委員会事業	委員会等 国際委員会 事業	委員会等 出版委員会 事業	委員会等 FG統括委員 会事業	委員会等 医薬品の包 装と情報分科 会事業	委員会等 教育分科会 事業
	寺田	高倉	佐々木	菊池	高倉	竹内	佐々木
一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	0	0	0
正会員	0	0	0	0	0	0	0
学生会員	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員	0	0	0	0	0	0	0
事業収益	0	0	0	0	1,500,000	0	0
学術集会・委員会等事業収益	0	0	0	0	1,500,000	0	0
参加費	0	0	0	0	1,500,000	0	0
助成金・補助金	0	0	0	0	0	0	0
寄付金・協賛金	0	0	0	0	0	0	0
セミナー共催金	0	0	0	0	0	0	0
講演要旨集等販売料	0	0	0	0	0	0	0
広告料	0	0	0	0	0	0	0
出展料	0	0	0	0	0	0	0
学会誌等出版事業収益	0	0	0	0	0	0	0
購読料	0	0	0	0	0	0	0
投稿料・別刷料	0	0	0	0	0	0	0
許諾料・使用料	0	0	0	0	0	0	0
広告料	0	0	0	0	0	0	0
学会賞等表彰事業収益	0	0	0	0	0	0	0
助成金・補助金	0	0	0	0	0	0	0
寄付金・協賛金	0	0	0	0	0	0	0
製剤技師認定事業収益	0	0	0	0	0	0	0
受験料	0	0	0	0	0	0	0
認定料	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0
受取利息	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	0	0	0	0	1,500,000	0	0
(2) 経常費用							
事業費	50,000	150,000	0	40,000	1,285,000	200,000	50,000
給料手当	0	0	0	0	0	0	0
臨時雇入金	0	0	0	0	10,000	0	0
会場費	0	0	0	0	750,000	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	20,000	0	0
会議費	50,000	100,000	0	40,000	120,000	0	50,000
関連行事費	0	0	0	0	50,000	90,000	0
賞状・賞牌・副賞費	0	0	0	0	0	0	0
通信運搬費	0	25,000	0	0	5,000	0	0
ウェブサイト管理費	0	0	0	0	30,000	0	0
消耗品費	0	0	0	0	60,000	21,112	0
印刷製本費	0	25,000	0	0	40,000	0	0
貸借料	0	0	0	0	20,000	0	0
保管料	0	0	0	0	0	0	0
諸謝金	0	0	0	0	150,000	88,888	0
租税公課	0	0	0	0	0	0	0
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0
業務委託費	0	0	0	0	0	0	0
公認会計士報酬	0	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	30,000	0	0
管理費							
経常費用計	50,000	150,000	0	40,000	1,285,000	200,000	50,000
当期一般正味財産増減額	-50,000	-150,000	0	-40,000	215,000	-200,000	-50,000
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	-50,000	-150,000	0	-40,000	215,000	-200,000	-50,000
指定正味財産増減の部							
受取寄付金・助成金							
一般正味財産への振替額							
当期指定正味財産増減額							
指定正味財産期首残高							
指定正味財産期末残高							
正味財産期末残高	-50,000	-150,000	0	-40,000	215,000	-200,000	-50,000

(注) 会計及び事業区分は、移行認定前又は移行認可前

# 収支予算書(損益計算ベース)

2011年4月1日から2012年3月31日まで

社団法人日本薬剤学会

科目	委員会等	出版	表彰	表彰	認定	連携	連携
	公益認定申請WG事業	学会誌出版事業	学会賞等表彰事業	創刊開発・研究賞表彰事業	製剤技師認定事業	国際学会等協力事業	国際標準医薬分業推進事業
	板井	菊池	寺田	寺田	菊池	佐々木	杉林
一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益	0	0	50,000	0	0	0	0
特定資産受取利息	0	0	50,000	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	0	0	0
正会員	0	0	0	0	0	0	0
学生会員	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員	0	0	0	0	0	0	0
事業収益	0	2,700,000	500,000	1,500,000	1,980,000	0	200,000
学術集会・委員会等事業収益	0	0	500,000	1,500,000	0	0	200,000
参加費	0	0	0	0	0	0	0
助成金・補助金	0	0	500,000	0	0	0	0
寄付金・協賛金	0	0	0	1,500,000	0	0	200,000
セミナー共催金	0	0	0	0	0	0	0
講演要旨集等販売料	0	0	0	0	0	0	0
広告料	0	0	0	0	0	0	0
出展料	0	0	0	0	0	0	0
学会誌等出版事業収益	0	2,700,000	0	0	0	0	0
購読料	0	1,000,000	0	0	0	0	0
投稿料・別刷料	0	600,000	0	0	0	0	0
許諾料・使用料	0	200,000	0	0	0	0	0
広告料	0	900,000	0	0	0	0	0
学会賞等表彰事業収益	0	0	0	0	0	0	0
助成金・補助金	0	0	0	0	0	0	0
寄付金・協賛金	0	0	0	0	0	0	0
製剤技師認定事業収益	0	0	0	0	1,980,000	0	0
受験料	0	0	0	0	1,420,000	0	0
認定料	0	0	0	0	560,000	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0
受取利息	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	0	2,700,000	550,000	1,500,000	1,980,000	0	200,000
(2) 経常費用							
事業費	650,000	9,350,000	2,720,500	1,448,500	1,855,553	1,900,000	300,000
給料手当	0	0	0	0	0	0	0
臨時雇入金	0	0	0	0	0	0	0
会場費	0	0	0	0	150,000	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0	400,000	0
会議費	150,000	0	100,000	300,000	750,000	0	300,000
関連行事費	0	0	0	0	0	0	0
賞状・賞牌・副賞費	0	0	2,150,000	850,000	0	0	0
通信運搬費	0	1,200,000	0	0	0	0	0
ウェブサイト管理費	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	0	6,500,000	0	0	150,000	0	0
貸借料	0	0	0	0	0	0	0
保管料	0	150,000	0	0	0	0	0
諸謝金	0	1,000,000	0	100,000	255,553	0	0
租税公課	0	0	0	0	0	0	0
支払負担金	0	0	0	0	0	1,500,000	0
業務委託費	500,000	500,000	470,500	198,500	550,000	0	0
公認会計士報酬	0	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	0	0	0
管理費							
経常費用計	650,000	9,350,000	2,720,500	1,448,500	1,855,553	1,900,000	300,000
当期一般正味財産増減額	-650,000	-6,650,000	-2,170,500	51,500	124,447	-1,900,000	-100,000
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	-650,000	-6,650,000	-2,170,500	51,500	124,447	-1,900,000	-100,000
指定正味財産増減の部							
受取寄付金・助成金							
一般正味財産への振替額							
当期指定正味財産増減額							
指定正味財産期首残高							
指定正味財産期末残高							
正味財産期末残高	-650,000	-6,650,000	-2,170,500	51,500	124,447	-1,900,000	-100,000

(注) 会計及び事業区分は、移行認定前又は移行認可前

# 収支予算書(損益計算ベース)

2011年4月1日から2012年3月31日まで

社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

科目	法人会計		内部取引消去	合計
	共通	小計		
	共通			
一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	0	0	50,000	0
基本財産受取利息	0	0	50,000	0
特定資産運用益	0	50,000	0	0
特定資産受取利息	0	50,000	0	0
受取会費	11,750,000	11,750,000	11,750,000	0
正会員	6,700,000	6,700,000	6,700,000	0
学生会員	1,050,000	1,050,000	1,050,000	0
賛助会員	4,000,000	4,000,000	4,000,000	0
事業収益	0	63,846,500	0	0
学術集会・委員会等事業収益	0	59,066,500	0	0
参加費	0	34,119,000	0	0
助成金・補助金	0	500,000	0	0
寄付金・協賛金	0	7,700,000	0	0
セミナー共催金	0	3,150,000	0	0
講演要旨集等販売料	0	65,000	0	0
広告料	0	1,732,500	0	0
出展料	0	11,800,000	0	0
学会誌等出版事業収益	0	2,700,000	0	0
購読料	0	1,000,000	0	0
投稿料・別刷料	0	600,000	0	0
許諾料・使用料	0	200,000	0	0
広告料	0	900,000	0	0
学会賞等表彰事業収益	0	100,000	0	0
助成金・補助金	0	0	0	0
寄付金・協賛金	0	100,000	0	0
製剤技師認定事業収益	0	1,980,000	0	0
受験料	0	1,420,000	0	0
認定料	0	560,000	0	0
雑収益	0	2,500	0	0
雑収益	0	2,500	0	0
受取利息	0	0	0	0
経常収益計	11,750,000	75,649,000	11,800,000	0
(2) 経常費用				
事業費	4,909,800	76,344,431		0
給料手当	720,000	720,000		0
臨時雇入金	400,000	4,430,250		0
会場費	0	10,940,500		0
旅費交通費	0	2,864,455		0
会議費	0	4,550,000		0
関連行事費	0	4,030,000		0
賞状・賞牌・副賞費	0	3,343,000		0
通信運搬費	0	2,502,500		0
ウェブサイト管理費	600,000	2,430,000		0
消耗品費	0	1,065,612		0
印刷製本費	0	12,155,000		0
貸借料	289,800	9,909,800		0
保管料	0	150,000		0
諸謝金	0	5,554,314		0
租税公課	0	0		0
支払負担金	0	1,500,000		0
業務委託費	2,900,000	10,019,000		0
公認会計士報酬	0	0		0
雑費	0	180,000		0
管理費			13,009,800	0
経常費用計	4,909,800	76,344,431	13,009,800	0
当期一般正味財産増減額	6,840,200	-695,431	-1,209,800	0
一般正味財産期首残高	36,247,810	36,247,810	14,390,934	0
一般正味財産期末残高	43,088,010	35,552,379	13,181,134	0
指定正味財産増減の部				
受取寄付金・助成金	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	20,000,000	0
指定正味財産期末残高	0	0	20,000,000	0
正味財産期末残高	43,088,010	35,552,379	33,181,134	0

(注) 会計及び事業区分は、移行認定前又は移行認可前

# 収支予算書(資金収支ベース)

2011年4月1日から2012年3月31日まで

社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

科目	当期予算額	前期予算額	差異	備考
事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入	50,000	80,000	-30,000	
基本財産利息収入	50,000	80,000	-30,000	
特定資産運用収入	50,000	100,000	-50,000	
特定資産利息収入	50,000	100,000	-50,000	
会費収入	23,500,000	23,174,000	326,000	
正会員会費収入	13,400,000	13,610,000	-210,000	
学生会員会費収入	2,100,000	2,604,000	-504,000	
賛助会員会費収入	8,000,000	6,960,000	1,040,000	
事業収入	63,846,500	51,253,500	12,593,000	
学術集会・委員会等事業収入	59,066,500	32,355,000	26,711,500	
参加費	34,119,000	29,425,000	4,694,000	
助成金・補助金	500,000	5,830,000	-5,330,000	
寄付金・賛助金	7,700,000	0	7,700,000	
セミナー共催金	3,150,000	5,127,000	-1,977,000	
講演要旨集等販売料	65,000	0	65,000	
広告料	1,732,500	871,500	861,000	
出展料	11,800,000	100,000	11,700,000	
学会誌等出版事業収入	2,700,000	3,421,500	-721,500	
購読料	1,000,000	1,100,000	-100,000	
投稿料・別刷料	600,000	650,000	-50,000	
許諾料・使用料	200,000	0	200,000	
広告料	900,000	1,671,500	-771,500	
学会賞等表彰事業収入	100,000	1,800,000	-1,700,000	
助成金・補助金	0	1,800,000	-1,800,000	
寄付金・賛助金	100,000	0	100,000	
製剤技師認定事業収入	1,980,000	1,650,000	330,000	
受験料	1,420,000	1,200,000	220,000	
認定料	560,000	450,000	110,000	
雑収入	2,500	0	2,500	
雑収入	2,500	0	2,500	
受取利息	0	0	0	
事業活動収入計	87,449,000	74,607,500	12,841,500	
2. 事業活動支出				
事業費支出	76,344,431	63,693,356	12,651,075	
給料手当支出	720,000	220,000	500,000	
臨時雇入金支出	4,430,250	2,315,250	2,115,000	
会場費支出	10,940,500	805,580	10,134,920	
旅費交通費支出	2,864,455	2,596,000	268,455	
会議費支出	4,550,000	3,018,000	1,532,000	
関連行事費支出	4,030,000	4,370,000	-340,000	
賞状・賞牌・副賞費支出	3,343,000	3,423,000	-80,000	
通信運搬費支出	2,502,500	3,137,440	-634,940	
ウェブサイト管理費支出	2,430,000	415,000	2,015,000	
消耗品費支出	1,065,612	2,680,000	-1,614,388	
印刷製本費支出	12,155,000	12,913,500	-758,500	
賃借料支出	9,909,800	8,210,000	1,699,800	
保管料支出	150,000	40,000	110,000	
諸謝金支出	5,554,314	5,692,393	-138,079	
租税公課支出	0	33,333	-33,333	
支払負担金支出	1,500,000	0	1,500,000	
業務委託費支出	10,019,000	6,319,860	3,699,140	
公認会計士報酬	0	84,000	-84,000	
雑支出	180,000	170,000	10,000	
管理費支出	12,909,800	14,931,233	-2,021,433	
給料手当支出	720,000	980,000	-260,000	
旅費交通費支出	400,000	650,000	-250,000	
会議費支出	1,500,000	1,500,000	0	
通信運搬費支出	1,200,000	1,000,000	200,000	
ウェブサイト管理費支出	600,000	500,000	100,000	
消耗品費支出	200,000	100,000	100,000	
印刷製本費支出	1,000,000	600,000	400,000	
賃借料支出	289,800	27,900	261,900	
保管料支出	0	300,000	-300,000	
租税公課支出	300,000	300,000	0	
支払負担金支出	0	1,700,000	-1,700,000	

業務委託費支出	2,900,000	3,640,000	-740,000
公認会計士報酬	1,000,000	333,333	666,667
貸倒引当金繰入額	2,800,000	2,500,000	300,000
雑支出	0	200,000	-200,000
事業活動支出計	89,254,231	78,624,589	10,629,642
事業活動収支差額	-1,805,231	-4,017,089	2,211,858
投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
特定資産取崩収入	1,448,500	4,048,500	-2,600,000
積立預金収入	1,448,500	4,048,500	-2,600,000
タケルアヤヒグチ記念基金	0	500,000	-500,000
創剤開発・研究賞積立金	1,448,500	48,500	1,400,000
学術集会等積立金	0	3,500,000	-3,500,000
投資活動収入計	1,448,500	4,048,500	-2,600,000
2. 投資活動支出			
特定資産取得支出	1,500,000	898,687	601,313
積立預金支出	1,500,000	898,687	601,313
創剤開発・研究賞積立金	1,500,000	898,687	601,313
投資活動支出計	1,500,000	898,687	601,313
投資活動収支差額	-51,500	3,149,813	-3,201,313
財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	-1,856,731	-867,276	-989,455
前期繰越収支差額	14,514,979	6,618,343	7,896,636
次期繰越収支差額	12,658,248	5,751,067	6,907,181